

海中公園事業と土木工学

財団法人 海中公園センター 田村 剛

I 用語の解説

- 1 NATURE PARK
- 2 MARINE PARK
 - LAND AND SEA PARK
 - ISLAND PARK
 - COASTAL PARK, CLIFF PARK, BEACH PARK, OFF-SHORE BEACH PARK, COASTAL SEA PARK
 - UNDER SEA PARK
 - (LAKESIDE PARK)
- 3 PARK SYSTEM
 - TRAIL, ROUTE, 景観 (LAND SCAPE), USAGE, ZONE, SUBZONE, DISTRICT, REGION, CENTER, SUBCENTER, APPROACH (ACCESS)

II 計画 PLANNING

- 1 CRITERIA
 - 自然を理解し尊重する
 - HISTORY
 - RECREATION
- 2 RESOURCES
 - CULTURAL RESOURCES
 - NATURAL RESOURCES (気候、風土、地形、地質、水面、傾斜)
 - BIOLOGICAL RESOURCES
- 3 HERITAGE
- 4 HISTORY
- 5 CONSERVATION
- 6 DEVELOPMENT
- 7 ADMINISTRATION
- 8 MANAGEMENT POLICIES (管理方針、又は管理政策)
- 9 ECOLOGY (生態学) HABITAT
- 10 LOCATION (SITE SELECTION)
- 11 LAND USE
- 12 LANDSCAPE PLANNING
- 13 DESIGN (土木、建築、造園、海洋工学)
- 14 COMMUNICATION, GLOBAL COMMUNICATION

15 TRAIL

16 ROUTE

- 陸上の道路, 鉄道
- 海上の航路
- 空の空路

17 水の深さ <参考> 海中公園の深さ 10 FATHOM (20M) ~ 20.30 FATHOM (40~50M)

18 PLANNING

- NATIONAL PLANNING 陸地と海洋 太平洋, インド洋, カリブ海, 地中海
- REGIONAL PLANNING

計画は人為で行うことではなく, 適当な SITE (敷地) を発見して, 自然の法則に教えられて開発することである。勿論計画は人類の利用のためにすることであってその自然的環境と調和を計りながら LAND USE (土地利用) を進めることである。

III 海中公園の特殊施設

海中公園の施設の計画に当っては, 自然資源の保存を計ることはいうまでもない。同時に人類の利用施設を適切に開発することが大切であり, これについてはあらゆる科学技術を総合して当らなければならない。従って現在開発されている土木, 建築, 造船, 海洋工学その他関係のあらゆる技術を総合してこれに当ることが必要であるが, そのうちでも左域にわたる計画については特に土木工学に期待するところが大きい。

これを事例によって解説すると地中海におけるイタリア, フランス, スロイン, 太平洋におけるアメリカ, カナダ, オーストラリア, 日本, 特に太平洋についてはその区域が広大であり, 人文的な条件, つまり政治, 宗教, 社会, 産業開発のレベルを異にしているからこれは地中海の40~50倍にあたるわけであるから, 少くも10前後の区画を計って各々関係国は一丸としての保護, 開発に際して必要な土地を開放し人類の利用, 自国の国民及び広くグローバルな開発に即して先進国の技術と資財によってこれを促進するように努めなければならない。

1 展望塔

- 人工漁礁の築造等水産や海洋工学, あるいは造船等の多方面の技術の総合化が必要である。

2 マリンハウス (仮称)

- 日本では全国で40~50ヶ所の海中公園が指定されているが, 現在のところ保護だけでなく人類の利用に対しては無関心な状態であり, 公園とはいえない。これを多角的に利用するには釣り, ヨット, ボート等の利用あるいは海水浴や砂浜の利用等を講ずるためには各地区毎に統制のとれた計画によって施設を建設し, これを広く周知させ, 現地において利用の指導を行う必要がある。安全, 保安上も考慮するため地区毎のセクターを設けてこれを広く利用させることは意義がある。

3 サブマリン

- 従来の海中公園の開発は5~6M からせいぜい10M 程度であるが、それより深いところ15M~30Mの深さには特殊なサンゴ類 (SOFT CORAL) の美しい群落が見られる。これはダイビングによるだけでなく、時に多数の人が利用出来る特殊な潜水艇の利用が効果的で企業性もあるように思われる。量産すれば格安になると思われるが、今のところ自航式にすると30人乗りで10億とこえるかもしれない。牽引式であれば数億の範囲で出来る。

4 航空機 (プロプラ機, ヘリコプター) の発着地

- ヘリコプターやDC-3程度の軽飛行機によって比較的近距离と遊覧と兼ねて交通の便に供する。

5 水族館

6 トレーニングセンター (クルージング, セイリング, ダイビング等)